本講義資料のご利用にあたって

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。
著作権が東京大学の教員等に帰属する著作物については、非営利かつ教育的な目的に限り複製および再配布することができます。

ご利用にあたっては、以下のクレジットを明記してください。

クレジット：
UTokyo Online Education　学術フロンティア講義　2025A　小川　真理子

UTokyo

東京大学2025年度Aセメスター学術フロンティア講義
多様な視点からジェンダーを見る

IncluDE
UTokyo
多様性包摂共創センター

第1回　イントロダクション

東京大学
多様性包摂共創センター（IncluDE）
特任准教授
ジェンダー・エクイティ推進オフィス副オフィス長
小川真理子

講義の流れ

１．ジェンダー概念の系譜

２．ジェンダー平等政策の課題

１．ジェンダー概念の系譜

ジェンダー（gender）

- ジェンダーという考え方はどのようにして生まれたのか？

ジェンダー　もともと文法上の性の分類を表す用語

男性名詞、女性名詞（言語によっては中性名詞）

↓

生物学的性（sex）に対する社会的、文化的に構築された性

という視座から議論

性別認識とジェンダーの再定義

- 1950年代　米性科学者　ジョン・マネー
  「生殖器官による性sex」ではなく、
  「性愛から社会的役割などを包括的に捉える性」を表す語を求め、
  「文法上の性を表す語」であったgenderを用いる
  ジェンダーを生物学的性との連続性で把握

- 精神分析学者　ロバート・ストーラー
  ジェンダーを社会的、文化的に作られたものという視点で整理

女性解放運動から誕生した女性学

第1波フェミニズム　参政権、財産権等の男女平等

第2波フェミニズム　社会慣習や社会意識による性差別の解消
家父長制（patriarchy）への批判

- **性別役割分業**　男性は生産労働　女性は家事労働

- 家事・育児・介護等家の中の労働は無償労働
↓
アンペイドワーク（不払い労働）

性差別（「女性」という存在におこる不平等な事象）

↓

- 女性の経験の顕在・理論化、メカニズムの解明
- 人間に平等に与えられる権利がなぜ「女性」にのみ与えられないのか
- 「女と男」の違いは、「性」による違い

→「性」には、生物学的分類、社会的分類

男性学

男性であるがゆえに抱え込んでいる問題を男性の視点から批判的に見直し、男性にとって生きやすい社会を目指す（伊藤, 1996）

第３波フェミニズム

人種やセクシュアリティ等の問題の重要性を踏まえ、ダイバーシティ（多様性）やインターセクショナリティの観点

インターセクショナリティ：人種や性別、国籍、階級、セクシュアリティなど様々なカテゴリー同士が複雑に絡み合いながら差別や不利益の仕組みをもたらすという概念（Crenshaw, 1989）

カテゴリーと結びついたステレオタイプ（固定観念）を疑い、自分らしさは自分で決める。男らしさや女らしさは自分で定義する

アカデミズムの外部の女性たちによるポピュラーな文化運動
ガール・カルチャーやポピュラー音楽、アート等の領域

第4波フェミニズム

オンラインメディアやSNSを中心として広がる

代表的な事例：2017年　＃MeToo運動

アメリカから始まり国際的に同時展開

日本　フラワーデモ

構造的暴力

自分らしく生きる：カテゴリーやステレオタイプを疑う営み

男性性研究　　ロバート・コンネル

・覇権的な男性性

・男性性の複数性

(Connel, 1987=1993)

クィア研究　　ミシェル・フーコー

・異性愛主義社会の権力と抑圧に異議申し立て

・社会的文化的構築物としてのセクシュアリティ

(フーコー, 1986)

ジェンダー研究の広がりと深化

ジェンダーという言葉の用法

1995年　国連北京世界女性会議

北京宣言及び行動綱領でジェンダーが多く使われる

ジェンダー・バイアス　性別にかかわる偏見や差別

固定的な役割観

分析概念としてのジェンダーの有効性

性別が社会的に構築されたものであるかもしれないことを考察

既存の学問研究がもつ前提や基準をジェンダーの視点から

問い直す

2．ジェンダー平等政策の課題

1999年 男女共同参画社会基本法

前文「男女共同参画社会の実現」は，21世紀の日本社会を決定する「最重要課題」として位置付けている

第5次男女共同参画基本計画（2020.12.25閣議決定）における課題

「202030目標」の未達成

202030目標：社会のあらゆる分野において、2020年までに指導的地位に占める女性比率が少なくとも30%程度となるよう期待する（2003年目標設定）

全体として「30%」の水準には程遠い

諸外国の推進スピードは速く

日本は女性の参画が遅れている

・進捗が遅れている要因

政治分野（**有権者の約52%は女性**）
- 立候補や議員活動と家庭生活との**両立が困難**
- **人材育成**の機会の不足
- 候補者や政治家に対する**ハラスメント**

経済分野
- 管理職・役員への**パイプラインの構築**が途上

社会全体
- 固定的な**性別役割分担意識**

内閣府男女共同参画局　第5次男女共同参画基本計画（説明資料）より抜粋
https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/5th/index.html

主な男女平等関連法制

1975 国連女性年（1976－1985　国連女性の10年）
1985 国連女性差別撤廃条約批准、男女雇用機会均等法
1991 育児休業法
1995 国連第4回世界女性会議、ILO 156条約批准
1997 介護保険法成立（2000施行）
1999 男女共同参画社会基本法
2001 内閣府男女共同参画局
2001 DV防止法
2003 少子化社会対策基本法
2015 女性活躍推進法
2018 政治分野における男女共同参画推進法
2022 困難な問題を抱える女性への支援法

女性版骨太の方針2022（2022.6.3）における課題

Ⅰ　女性の経済的自立

Ⅱ　女性が尊厳と誇りを持って生きられる社会の実現

Ⅲ　男性の家庭・地域社会における活躍

Ⅳ　女性の登用目標達成

昭和の時代に作られた制度、
男女間の賃金格差を含む労働慣行、
固定的な性別役割分担意識など
構造的な問題

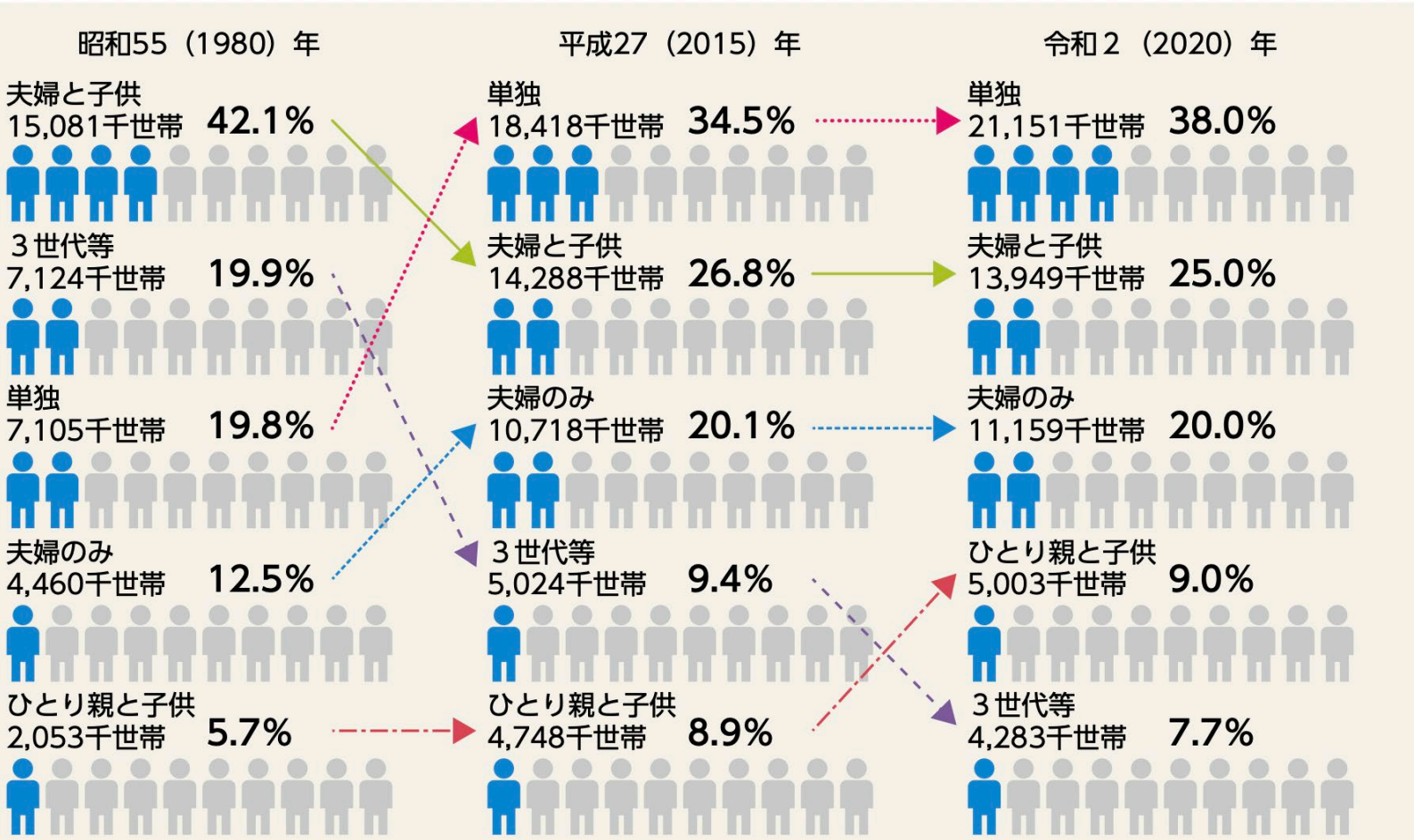
ノーベル経済学賞　C.ゴールディン氏　　男女の賃金格差の研究

日本：働く女性が増えているものの、フルタイムで昇進機会もある正社員ではなくパートなどの短時間労働が多い。真の意味での女性の社会参画は進んでいない。

日本には手厚い育児休暇制度があるにもかかわらず、職場に影響を与える可能性がある、との理由で取得しない人が多い。
(毎日新聞 https://mainichi.jp/articles/20231010/k00/00m/030/022000c 2023/10/10 記事)

家族形態の変化　昭和→平成→令和

特－５図　家族の姿の変化



（備考）１．総務省「国勢調査」より作成。
２．一般世帯に占める比率。施設等に入っている人は含まれない。「３世代等」は、親族のみの世帯のうちの核家族以外の世帯と、非親族を含む世帯の合算。
３．「子」とは親族内の最も若い「夫婦」からみた「子」にあたる続柄の世帯員であり、成人を含む。

昭和：
標準世帯
（夫婦と子）
42%

↓

令和：
単身世帯＋
ひとり親と子世帯
47%

家族の多様化

内閣府男女共同参画局　令和4年版 男女共同参画白書（2022）
https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/index.html

女性版骨太の方針2024における課題

内閣府 女性版骨太の方針2024 説明資料より抜粋
https://www.cao.go.jp/press/new_wave/20240709.html

第6次男女共同参画計画(2025年12月策定予定)
・今後5年～10年の日本の男女共同参画に関する方向性を示す計画

「第6次男女共同参画計画策定に当たっての基本的な考え方（素案）」（2025）
内閣府男女共同参画局　https://www.gender.go.jp/kaigi/senmon/6th/ikenboshu.html

#WeChange
UTokyo

東京大学におけるダイバーシティ＆インクルージョン
ジェンダー・エクイティ推進オフィスの取組

https://www.u-tokyo.ac.jp/kyodo-sankaku/ja/index.html

東京大学におけるダイバーシティ, エクイティ＆インクルージョン

2006年　男女共同参画室設置

2021年　UTokyo Compass
2022年　ダイバーシティ＆インクルージョン宣言
2022年　令和4年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー型）」採択
https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/outline/
2024年　東京大学における性的指向と性自認の多様性に関する学生のための行動ガイドライン
東京大学多様性包摂共創センター（IncluDE）新設　DEI実践部門
ジェンダー・エクイティ推進オフィス設置（男女共同参画室より改組）

IncluDE
UTokyo
多様性包摂共創センター

https://include.u-tokyo.ac.jp/

【引用・参考文献】

Connel, R. W.（1987）*Gender and Power: Society, the Person and Sexual Politics*, Policy Press（森重雄・加藤隆雄・菊池栄治・越智康詞訳（1993）『ジェンダーと権力――セクシュアリティの社会学』三交社.

デルフィ,C. (1996)『なにが女性の主要な敵なのか: ラディカル・唯物論的分析』井上たか子, 杉藤雅子, 加藤康子訳，勁草書房.

フーコー，ミシェル（1986）『性の歴史I　知への意志』渡辺守章訳，新潮社.

ジェンダー事典編集委員会編（2024）『ジェンダー事典』丸善出版.

平山亮（2019）「男性による抑圧」と「男性性からの解放」で終わらない男性性研究へ」『女性学』27:42-56.

伊藤公雄（1996）『男性学入門』作品社.

Maney, J., P, Tucher (1975) Sexual Signatures On being a Man or Woman, Little, Brown.（朝山新一訳（1979）『性の署名―問い直される男と女の意味』人文書院).

小川真理子（2015）『ドメスティック・バイオレンスと民間シェルター』世織書房.

清水晶子（2022）『フェミニズムってなんですか？』文藝春秋.

ストーラー, R. (1973）『性と性別―男らしさと女らしさの発達について』桑畑勇吉訳，岩崎学術出版社.

舘かおる（2014）『女性学・ジェンダー研究の創成と展開』世織書房.

田中東子（2020）「感じのいいフェミニズム？ポピュラーなものをめぐる、わたしたちの両義性」『現代思想フェミニズムの現在』Vol.48－4，青土社.

【参考情報】

NHK Eテレ特集シリーズ『日本人と東大』

- 第1回『エリートの条件 “花の28年組”はなぜ敗北したのか』
- **第2回『壁と翼 ～“女子学生2割”の問いかけ～』**
- **英語版 ＜NHK World - Japan＞**

- Documentary 360 Wings Over Walls: Tearing Down the 20% Barrier

「娘たちは翼を折られてきた」女子学生の数が2割で停滞する東大。差別の根は、1946年、初めての女子学生19人から始まっていた。社会が映る、一人一人の声を聞く

- https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/shows/3026031/（2026年6月6日まで視聴可能）